

踏み跡 <My Mountains>

東北	八幡平ほか	No.310
----	-------	--------

八幡平へ行ってみることにした。距離が遠いことと冬の豪雪など関東地方にはないサイズの山であること等から、八甲田とともに何十年も前から行ってみたいなど思いながら棚に上がったままになっていた。

坂上田村麻呂が蝦夷征伐の時に、この地に逃げ込んだ賊を討伐してこの賊の霊を弔うとともに武運を祈願するために八幡を奉じたとの説があるが、他説もありいずれを信ずるべきかはわからない。

広義の「八幡平」とは、八幡平(1613.6m)を中心に茶臼岳・巻(もっこ)岳・源太ヶ岳などを含む楯状火山のことを言うらしい。北緯39度57分東経140度51分に位置し、この緯度での海拔1600mの高さは、植物の垂直分布から考えると本州中部での3000mに匹敵すると思われる。火山・湿原・豪雪地帯の山などのほかに植物を見るのも八幡平を楽しむテーマのひとつになる。

活火山の周辺にはいくつもの温泉が点在し、八幡平へ行くなら温泉を楽しまないと片手落ちになる。

現地(盛岡あたり)でレンタカーを借りるか、それとも自分の車(ホンダCRV)で行くか、ずいぶん迷った。途中で寄り道しながらのんびり行ってみるのも悪くないと思い、初めての長距離ドライブにも挑戦して見ることにした。



平成18年10月10日 <自宅→柏IC→いわきJCT→郡山JCT→盛岡IC→滝の上温泉(泊)>

天気は上々、早起きをして自宅を5時半に出発。国道16号線経由で柏ICから常磐自動車道に入って、いわきJCTから郡山JCTに入るルートを選んでみた。東北自動車道に入るのには岩槻ICからとか首都高速から浦和経由で入るとか、様々なルートが考えられるが、磐越自動車道が開通してからはこのルートを選ぶことが多い。

常磐自動車道経由だと日光の山・那須連山などを見ることはできないが、浜通りから中通りへ入って行く時の景色の変化が楽しい。日本の原風景と思えるようなのどかな田舎の景色が数多く見られるのが魅力だ。吾妻連峰・蔵王連山などを見て仙台市郊外を抜けてしばらく穀倉地帯を通り抜けると左手に栗駒山、ここまできると「やはり遠いんだな」を実感する。

前沢SAで休憩中に左後輪に釘が刺さっているのを見つけて急遽パンク修理。初めての遠出なのに幸先悪し。でも、ここで発見できて良かった。走っている内に空気が抜けて、タイヤが吹き飛んで・・・、想像しただけでも恐ろしい。命拾いしたと思わなければいけないのかもしれない。

盛岡ICで下りて雫石を抜け、岩手山から八幡平への稜線と秋田の乳頭山から大白森への稜線に挟まれた葛根田川(かっこんだがわ)を遡って滝の上温泉へ。徐々に谷間が狭くなって、木々の色にも秋の美しさを感じられるようになる頃16時15分に滝の上温泉に到着。



谷のいたるところから蒸気が上がっており、特に地熱発電所の周辺は白い湯気が力強く上がっている。岩の隙間から湯気が噴き出す鳥越の滝(左写真)や地熱発電所のプラントが立ち並ぶ道を散歩の後今宵の宿滝観荘に入った。(一泊二食付き7,500円/人) さすがにどん詰まりの宿だけあって、テレビは映らないし携帯電話も使えない。聞こえるのは溪谷の水の音だけ、来た価値がある素晴らしい静けさの場所だ。まずは滝の上温泉の湯と食事とを楽しむだけの初日。

やはり一日中車を運転しているというのは疲れるものだ。温泉がありがたい。

踏 み 跡 <My Mountains>

平成18年10月11日 <滝の上温泉→網張温泉→春子谷地→松川温泉(泊)>

文句なしの快晴。本日の行程は山一つ越えた反対側にある松川温泉まで。三石山を越えて歩いて行けば4時間ほどで行くことができる筈だが、我々は車で岩手山を四分の三周して遊びながら行く。

滝観荘を出て葛根田川を数分下ると鳥越の滝。朝日を浴びた滝の姿は昨日夕方に見たものとは違う輝きを感じられる。朝一番でもう大休止に入り、いくつものアングルから撮影を楽しんだ。紅葉と水の色と噴き出す水蒸気、ダイナミックな滝の景観が素晴らしい。

葛根田川に沿ってさらに下って行くと対岸に木目の細かな柱状節理が見えてくる。玄武洞と名が付いているが、大きな岩屋は平成10年9月の地震で崩壊してしまったそうだ。

玄武洞を過ぎて滝の上分れを左折して岩手山南麓に上がって行くと網張温泉。岩手山の西側の肩に位置する犬倉山は1408m、網張スキー場のリフトを使用することができるので、登って見ることにした。

リフトの終点まで行くと葛根田川の谷の向こう側に高倉山から乳頭山・大白森へと連なる尾根が雄大に連なり、その向こうに秋田駒の姿も伺うことができる。ここまで上がって来ればさほどの起伏もないので、風と陽光を感じながら稜線をしばらく散策。(右写真)



次の目標地点は春子谷地。網張に下りて岩手山を左手に見ながら南麓を快適にドライブしていると、突然道路の左下に大きく窪む春子谷地が現れた。湿原の向こう側には岩手山の見事な三角錐。(左写真)

さらに東へ進み、岩手山神社を通過して津軽街道に下りた。ロードマップを見ていたら岩手山北東麓に焼走りという溶岩流の跡があることを発見。津軽街道を北上し、西根から標高差300~400m上ると、視界が開けて大きな溶岩流跡が広がって来た。不規則に凹凸がある溶岩の上は歩きにくい砂利を敷いた道もある。

溶岩流の向こう側には雲の中に首を突っ込んだ岩手山。岩手山の風貌も南面と北面とではずいぶん違って見える。

再び津軽街道に戻り、大更駅前を左折して西に向かう。進むにつれて松川に沿った平野が少しずつ狭くなって来る。北から八幡平の大尾根が迫り、南から円錐状の岩手山の裾野が迫って来るようになると八幡平温泉になる。北又川との合流地点を過ぎて松川の源流に入ってさらに分け入るように山の中に入って行くと素晴らしい紅葉が待ち構えていた。特に松川大橋や地熱発電所の周辺は見頃で、快晴の空の色や地熱で噴き出す湯気と相まって輝くような美しさ。(上写真:松川大橋で)



何軒かある宿の前を通過して、藤七に向かって八幡平樹海ラインを少し登って行くと今宵の宿峽雲荘があった。いかにも山奥のさらに奥まで来たような感じがする景色の所だ。(一泊二食付き 11,700円/人)

平成18年10月12日 <松川温泉→八幡平→沢内→湯田→湯川温泉(泊)>

今日も快晴。松川温泉を出て主稜線の腹を巻くように八幡平樹海ラインを北上。北又川の水源になる沢のどん詰まりに藤七温泉がある。ここにも泊って見たいと思って出発前に数回電話したのだが、満員でだめだった。藤七温泉を過ぎてしばらく登ると脊岳と八幡平の鞍部にある見返峠。西へ行けば後生掛温泉・玉川温泉方面、東へ行けば八幡平アスピーテラインを経て八幡平温泉に下る分岐点。うっすらとガスがかかっている遠望は利かないが、足元の眺望は充分楽しむことができる。ここに車を停めて、沼と湿原と高山植物を足で楽しむことにする。山頂付近はガスの中に入っている模様。



雨具に身を固めて登る道はさほど苦にならぬ程度の山道。

八幡平山頂は海拔1613.6m、9時55分。景色は見えないので山頂の標識を撮影しただけで通過。(左写真) ガマ沼・八幡沼を歩くうちにガスが切れて青い空が戻って来た。鏡沼・メガネ沼を回って見返峠の駐車場に戻った。



アスピーテラインを東へ少し進むと黒谷地。(右写真)

踏 み 跡 <My Mountains>

草紅葉の向こうにアオモリトドマツが広がる湿原をしばし散策。

八幡平温泉へ下る途中にも湿原・池・紅葉など目を引くスポットが沢山あり、そこらじゅうで小休止を取りながら下った。八幡平温泉に下り、西根 IC から東北自動車道に入り盛岡へ。下界は快晴で暑いぐらい。

盛岡 IC から国道 46 号線（秋田街道）を西へ、雫石から県道 1 号線（盛岡横手線）に入り南西へ。御所湖を過ぎると徐々に左右から山が迫るようになり、ロードマップを見ると「ヤマメ・イワナ」と書かれた沢が目立つようになる。山伏トンネルを抜けると和賀川に沿うようになり、沢内村。時計を見ると 15 時を少々まわったところ。時間はあるので、気になった所をのぞきながら行くことにした。

その名前の響きから、一度行ってみたいと思っていた村だが、今は町村合併で西和賀町になってしまった。谷あいの集落が並び、冬はかなりの積雪があるらしいが、谷が広いので明るい感じがする。沢内銀河高原ホテルと名付けられた、どこの国かしらと思うようなモダンな建物が建っていたりで、頭の中で勝手に想像していたイメージとはずいぶん異なる沢内村だった。

沢内を過ぎると湯田町に入り、程なく国道 107 号線に突きあたる。紅葉の錦秋湖を挟んで北上線と国道が走る。北上線は東北本線の北上と奥羽本線の横手を結ぶ鉄道で、むかしは横黒線（おうこくせん）と言った。横手と黒沢尻（今の北上）の頭文字をとった路線名で、冬の豪雪の中を走る蒸気機関車の逞しい姿を写真で楽しんだものだ。

湯田からか細い道を南に向かって県境の山の中へ入って行くと湯川温泉があった。高繁旅館が今宵の宿。

（一泊二食付 10,650 円/人）

平成 18 年 10 月 13 日 <湯川温泉→浮島沼→北上江釣子 IC→福島飯坂 IC→穴原温泉（泊）>

天気は快晴。ロードマップを見ていたら県境の山中に浮島沼という沼があることがわかり、行ってみたいとなった。宿の人に道を聞いて出発。湯川温泉の一番奥まで行き、小鬼ヶ瀬川に沿って秋田県に向かって上って行くと険しい林道になり不安な気持ちになりかかった頃に浮島沼入口を示す標識が見つかった。

路肩に車を停めてさらに山の中へと進む。そこかしこにキノコも出ており写真撮影をしながらゆっくり登って行くと、小一時間登ったと思われる頃に目の前に沼が現れた。（左写真）



時計を見ると 10 時半。林の中はヒンヤリとした空気に包まれていたが、沼は傾斜の緩い県境の稜線の上の僅かなくぼみのような場所なので、日が高くなるにつれて夏のような状態になって来た。澄んだ空気の下で、沼の水面に青い空と

白い雲が映り、心地よい散策になった。写真を撮りながらゆっくり下り、車を停めている場所まで戻ったら正午を過ぎていた。

沼の散策でずいぶん時間を費やしたので、予定していた中尊寺・巖美溪観光は中止して、昼食を食べた後北上江釣子 IC から東北自動車道に入り帰宅の途に着いた。

一関を過ぎて宮城県に入ると徐々に平野が広がって来る。平野が広がると車窓の景色に変化が乏しくなり、眠くなりやすい。このまま東京まで走るのはちょっと疲れそうなので、寄り道して途中もう一泊することにした。サービスエリアでロードマップを見ながら色々探しまくった結果、温泉に入れることを目的に福島で下りて飯坂温泉でも行ってみようかということになった。走りながら助手席でかみさんが電話で宿探しをするという、当家では比較的当たり前なスタイル。

福島飯坂 IC を下りて飯坂温泉の奥にある穴原温泉へ。もう暗くなってきた頃に富士屋旅館という宿を見つけた。なんと、通された部屋は一番奥のカビ臭い部屋だった。「鷹の間」という掛札が付いていたので客室だったことは間違いなさそうだがしばらく使っていないか、またはガラクタ部屋にでもなっていたと思われる「香り溢れる特別室」だった。廊下に日本髪の女性の大きな絵が飾ってある今風に言えばレトロな宿だ。昔は繁栄したが、新しいビジネスがどんどん入ってきて苦境になった宿なのかもしれない。温泉に入れたということで我慢して一夜を過ごしたが……。

平成 18 年 10 月 14 日 <穴原温泉→フルーツライン→本宮 IC→いわき勿来 IC→日立南太田 IC→柏 IC→自宅>

最終日も晴、こんなに天気に恵まれた旅も珍しい。宿を出てフルーツラインを走りながら目に止まったお店

踏 み 跡 <My Mountains>

を気ままに覗き、歩き土産を買いながら本宮まで走った。

本宮 IC から東北自動車道に入り、郡山 JCT で磐越自動車道に入っていわき勿来 IC まで行き国道 6 号線に下りた。高速道路を下りた狙いは 6 号線沿いに走りながら夕食を食べる場所を探そうということ。

再び土産物あさをしながら走り、途中で夕食を食べて日立南・太田 IC から常磐自動車道に入った。柏 IC 経由で自宅帰着は 20 時 15 分。

天候に恵まれたし、憧れの八幡平を歩くことができたし満足感のある旅だった。走行距離 1,500Km、5 日間の初の長旅は無事終了した。

以上